

大会名	第72回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会				チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	延長	合計
期日	H30.6.2	会場	TKOいちごアリーナ	試合No.	正智深谷	23	17	27	15		82
審判	(主) 岡崎 武史	(副) 廣瀬 俊昭	中島 孝博	B2	文星附属	10	8	19	16		53

### 正智深谷高等学校(埼玉)

コーチ 成田 靖      A・コーチ 福井 直人      マネジャー

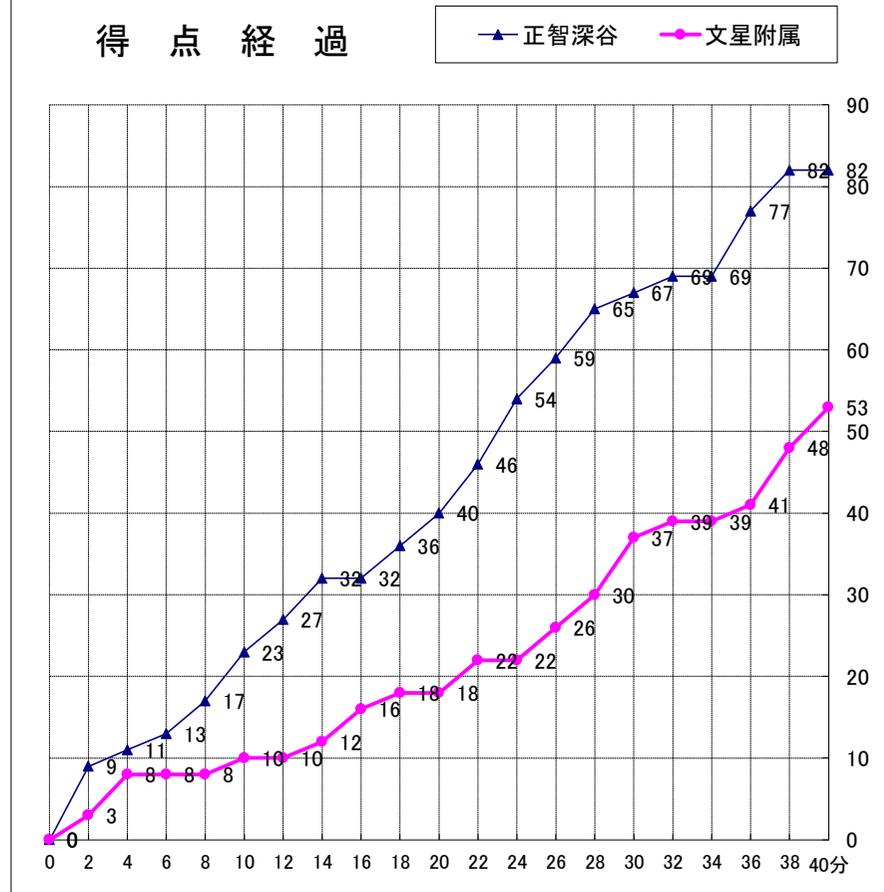
選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
勝山 大輝	4	14	0	2	7	15	0	4	1	6	7	13
渡部 琉	5	22	2	7	7	13	2	6	2	4	15	19
石橋 柁	6	0	0	2	0	5	0	0	1	1	3	4
伊藤 陵	7	19	4	14	2	2	3	3	0	3	2	5
松本 大輝	8	8	2	2	1	4	0	0	3	1	2	3
佐々木 諤	9	3	1	5	0	2	0	0	2	1	2	3
草野 颯斗	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
川端 蓮己	11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
八尾 航平	12	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1	1
横田 利道	13	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1
坂井 悠真	14	8	2	5	0	1	2	3	0	0	0	0
島本 海丸	15	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1
太田 誠	16	4	0	0	2	4	0	0	2	1	1	2
藤平 皓成	17	2	0	0	1	2	0	0	1	1	2	3
木村 遥音	18	2	0	2	1	4	0	3	4	1	5	6
チーム合計		82	11	39	21	57	7	19	20	22	47	69
成功率			28.2%		36.8%		36.8%					

### 文星芸術大学附属高等学校(栃木)

コーチ 伊藤 均      A・コーチ 吉澤 啓貴      マネジャー 福永 涼介

選手名	背番号	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド		
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	合計
上岡 奏人	4	20	2	4	7	13	0	0	2	1	5	6
疋田 翔琉	5											
磯部 海斗	6	0	0	0	0	4	0	0	1	0	1	1
橋本 颯人	7											
松本 啓汰	8											
山本 泰平	9											
大石 英昇	10	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	4
畑中 龍之介	11	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
坂本 亮雅	12	11	0	0	5	11	1	6	4	1	13	14
清水 一樹	13	6	0	4	2	13	2	3	5	0	3	3
添野 快時	14	6	0	1	2	10	2	2	3	1	1	2
塩田 勇次	15											
野口 拓哉	16	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
伊藤 恒星	17	0	0	1	0	4	0	0	1	1	2	3
清永 湧士	18	8	0	0	3	5	2	3	0	1	8	9
チーム合計		53	2	10	20	62	7	14	17	9	35	44
成功率			20.0%		32.3%		50.0%					

### 得点経過



### 戦評

Bコートでの第二試合、正智深谷と文星附の試合が始まった。開始わずか14秒、文星附の#13がジャンパーのバスケットカウントで先制。対する正智深谷も#7と#8の連続3Pで反撃。その後も正智深谷がゴール下での得点を重ね、そのままリードを広げた。一方文星附は正智深谷の堅いディフェンスを前に思うように得点を重ねることができず、23-10で第1ピリオドは正智深谷のリードで終了。

続く第2ピリオド、流れを変えたい文星附であったが細かなミスが目立ち、流れは正智深谷のままゲームは進行。正智深谷が#4や#5のゴール下などで得点を重ね、残り3分半となったところでたまたま文星附がタイムアウト。その後、文星附はリバウンドから速い展開に持ち込んでいったが、シュートはリングに嫌われ、40-18で正智深谷がリードしたまま前半は終了した。

後半開始30秒、正智深谷が#6のスティールから#5が速攻で先制。それに対し文星附もディフェンスを3-2ゾーンに切り替え、バスケットから#4が速攻で反撃。両チームとも良い出だしてあったが、正智深谷が上手くバスを回して文星附のゾーンを崩していき、後半開始4分半で文星附がこの試合2回目のタイムアウト。文星附は速攻やゴール下で得点を重ねたが、アウトサイドの調子が上がってきた正智深谷を止めることができず、第3ピリオドは67-37で終了した。

最終ピリオド、後がない文星附はアグレッシブなディフェンスから#14が速攻で得点を決めるなど、全員で果敢に攻撃するが、点差は縮まらず。結局リードを保った正智深谷が82-53で勝利した。しかし最後まで諦めずチーム一丸となって戦う文星附の姿は素晴らしいものであり、非常に見応えのあるゲームであった。両チームの健闘を讃えたい。

記入者 藤本 創